

令和7年産みえの麦生産改善技術情報 第1報

現在までの生育状況

- ・播種作業は、10月上旬以降に定期的な降雨があったため、開始がやや遅れました。
- ・気温は、11月は平年と比べやや高く、12月はやや低く推移しています。
- ・生育は、11月上旬播種では5～6葉期と、平年に比べ早くなっています。

麦類作況調査（農業研究所（松阪市）調べ）

品種	調査日	1/9（播種後58日目）		
	播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)
ニシノカオリ	11/12	15.3 (17.0)	659 (552)	5.1 (4.6)
タマイズミR		12.2 (15.1)	507 (688)	4.7 (4.8)
あやひかり		12.9 (14.5)	495 (539)	5.0 (4.7)
さとのそら		10.1 (12.7)	687 (606)	5.6 (5.1)
ファイバースノウ		10.5 (12.8)	715 (654)	4.8 (4.3)

※括弧内の数値は過去10年(タイズミRは過去6年、草丈は過去4年)の平年値 ※播種量：200粒/m²

※施肥量：(ニシノカオリ・タイズミR)基肥-6葉期-止葉抽出始期-穂揃い期(Nkg/a):0.7-0.3-0.3-0.4

：(その他)基肥-6葉期-止葉抽出始期(Nkg/a):0.7-0.3-0.3

今後1か月の気象（1/18～2/17）

- ・1/16発表の名古屋地方気象台の1ヵ月予報発表によると、**1/18～31の気温はかなり高くなる見込み**です。
- ・麦の生育も早くなることが予想されるので、**生育状況を適宜把握し、適期に追肥**を行うようにしましょう。

今後の栽培管理ポイント

① 適切な追肥を！

1回目の穂肥：幼穂形成期（6葉期頃）、窒素2～3kg/10a

- ・穂数、粒数を確保するため施用します。
- ・この時期は桿長も伸びやすいので、過剰な施肥は避けましょう。

2回目の穂肥：止葉抽出始期（3月中下旬）、窒素2～3kg/10a

- ・収量確保のために重要ですが、軟質小麦（あやひかり・さとのそら）では、出穂期以降に窒素の肥効が高まると硝子粒が発生して外観品質の低下や、製品の加工特性に悪影響を及ぼします。このため、過剰な施肥は避けましょう。

3葉期から節間伸長開始期までに、凍霜害を防止するために**麦踏**を行いましょう。

穂肥の1回目から2回目に期間が空いた場合、**肥料切れ**に注意！葉色が薄い場合は早めに追肥（窒素：1～2kg/10a）を！

予測される幼穂形成期および止葉抽出始期

品種	播種日：11/10			
	予測される 幼穂形成期	平年との差	予測される 止葉抽出始期	平年との差
ニシノカオリ	2/7	6日早い	3/21	4日早い
タマイズミR	2/8	10日早い	3/26	4日早い
あやひかり	2/11	6日早い	3/21	3日早い
さとのそら	2/13	6日早い	3/21	3日早い
ファイバースノウ	2/7	6日早い	3/24	2日早い

※メッシュ農業気象データを用いた生育予測システム(三重県農業研究所)による予測値です。

※1/14時点の予測値であり、今後の気象により変動する可能性があります。

※メッシュ農業気象データはタマイズミR：伊賀市森寺、他品種：松阪市嬉野のデータ

②登熟期に向けた排水管理を！

- ・出穂期から登熟期の湿害は、登熟不良につながります。
- ・令和6年産麦では、3月下旬以降の多雨により湿害の発生が多く認められました。
- ・春先の長雨に備え、ほ場内の明渠、排水路の連結などを徹底しましょう。



周囲溝は確実に排水溝に
つなげましょう！



明渠内をチェックし、土塊等を除去
しましょう。

特に、本作では12月以降の降雨量
が極端に少ないため、土壌が乾燥し
崩れやすくなっているため注意が必要
です。

令和7年 1月17日
三重県産麦生産改善技術対策会議